

- 7) Nishiwaki, M and Ohe, T. (1951): Biological investigation on blue whales (*Balaenoptera musculus*) and fin whales (*Balaenoptera physalus*) caught by the Japanese Antarctic whaling fleets. *Ibid.*, 5.
- 8) Rustad, D. (1934): On the Antarctic euphausiids from the "Norvegia" expeditions 1929-30 and A30-31. *Sci. Result Norw. Antarct. Exped.*, 1927-1928 et *SQQ* 12.

5 総合討論

(小副川) ハワイ会議の見込はどうか。

(土井) 昨年のイワシについて討議し、今年は(1969年国際捕鯨会議)多少歩み寄れたから、一週間もあれば合意が得られるのではないか。

(大山) 他国が低い数字を出し、上限と下限の数字を平均して結論を出すのに疑問を持っている。単に、上限と下限の平均値をとるのではなく、日本の論文を良く説明して、出来るだけ日本の正当性を理解させることが大切な事である。

(小副川) そうあつて欲しいし、そうあるべきと思うが、その中に人種的カラーに起因した感情が入つて来ると困ると言う懸念を持つ。

(大村) 何といつても、日本がもつとも資料をもっているから強い。

(大山) 資源評価はある程度の範囲の中(生産部、業界)でも認識してもらいたいと思うし、その意味で時間に余裕をもつて対策委員会の小部会のような会合(勉強会)を開きたいと思つている。月に1度位考えているが。

(大隅) 吾々のレポートに対する業界の方々の御意見を伺い度い。そう云う意味でも、そのような会合を持ち度い。

(大村) 吾々は資料をもらつて資源診断を行ない、その結果が直接行政に結びつくので、会議の直前ではなく、日頃からそのような会合を持ちたい。

(小副川) そう云う会合を、充分時間をかけて実施することは大いに結構で、やりましょう。それから、結果がすぐ業界に迷惑すると云うことは考えないでよい。吾々自身も資源の高度利用を考えているのだから。

(飯田) 57フィートのナガスタジラは何才と云う大体の目安を知らせてもらいたい。

(大隅) その資料は、Age-Length Key があるので、いつでも利用されたい。

(大村) それは、まとめたものでよい。

(大津留) イワシは全体的にはMSYといつたが、Ⅲ区とⅣ区を大体同じと考えてよいか。

- (土井) あれは全部で、Ⅱ区は割つてⅢ区は丁度、他の海区はMSY以上。従つて全体を平均するとMSY以上ということになる。
- (大津留) Ⅲ区は、感じとしてはMSY以下ではないかと考えている。
- (土井) Ⅲ区はMSYに近いので、そういうことは正しいのではないか。
- (土井) ナガスが安定したという操業報告があつたが、僅かの年数でそうなることは考えられないが、どうか。
- (小副川) 発見頭数を根拠に安定したということで、SYという意味で表現したのではないと思うが。
- (斉藤) あくまでも局部的資料による報告であつて、全体を眺めれば土井さんのいわれる通りではないか。
- (大村) 折角集まつたので、前に出た小部会について議題を決めておいてはどうか。
- (大山) 各論についての報告を、逐次進めていつてはどうか。
- (大山) 議題について、こゝで最終決定は出来ないので、宮崎さん、水産庁、研究者と集まつて決めたいと思うが。
- (大隅) 今まで、このような会合が実施出来なかつたことは、事務局が確立されていなかつたため、この件については水産庁と捕鯨協会とで相談してはどうか。
- (大山) 経費のこともあるし
- (大山) 捕鯨協会と相談して決定し、それから具体的に報告したいと思います。